

# Fontaine

vol. 43

発行日 2014年3月25日  
発行/岸和田文化事業協会〒596-0073 岸和田市岸城町5-10  
岸和田市立自泉会館内  
TEL/FAX 072-437-3801  
Email:fontaine@sensyu.ne.jp  
http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

## 「場」の大切さ

毎日新聞学芸部専門編集委員 畑 律江



「ハコモノ」という言葉がある。国や自治体が建設する美術館や博物館、劇場などの公共施設のことを言う。だが、たいていはこの下に「行政」という言葉がついていて、あまりいい意味では使われない。建設を第一義とし、運用やソフト面の充実をおろそかにしたために、施設が十分に機能していない状態は「ハコモノ行政」と呼ばれ、批判される。

だが、だからといって、人々が集う施設を頭から何もかも無駄だと決めつけるのは考えものだろう。むしろ最近、人が集う「場」の大切さを改めて感じさせられている。

その背景は二つある。一つは、私が取材している演劇界の現状を見てのことだ。大阪の中心部には、他の大都市圏にあるような演劇専用の公立劇場がない。民間劇場は採算を重視するため、東京で製作された人気作の上演が主となる。地元の若者が使える小劇場や稽古場も不足気味だ。このため最近、カフェやギャラリーを借りて芝居を打つ劇団が目立つ。むろん、そうした芝居にも秀作はあるのだが、やはり手頃な劇場がほしい。この状況が長く続くと、大阪では劇場空間を使いこなせる演劇人が育たなくなる恐れがある。

もう一つの背景はインターネットの発達である。私の職場でも、最近はいよいよの連絡事項が電子メールで送られてくる。「企画書をメール

で送れ」というメールがきて、その採用不採用もメールで返ってくる。打ち合わせの数が減り、確かに便利にはなった。だが時々、同僚たちと何かと直に話し合っていた頃が少し懐かしくなる。近年、ネット上で不確かな憶測が拡散したり、急激な熱狂やバッシングが渦巻いたりしているのを見ると、仮想空間を行き交う言葉が個人をざらざらした砂粒のようにきしみ合わせているのではないかと、不安になってきたりもする。

一見無駄に見えても、人が一つの「場」で時間と空間を共有し合うことに、実は大きな意味があるのではないだろうか。他者と目を合わせ、互いの意見を突き合わせながら物事を進めるのは、とても面倒なことだ。だが、そんな「場」で他者から得た確かな手応えが、職場やコミュニティを守る力につながるのではあるまいか。たとえば演劇界で言うなら、劇場とは「座っていれば面白いものを見せてくれるハコ」などではない。表現する人や表現にふれたい人を出会わせ、共に心を動かす「場」をこそ、劇場と呼ぶのである。

豪華である必要はない。官民の別は問わず、人々が出会う「場」として機能する施設が魅力的なものであり、必要とされているのだ。文化を愛する人々の歴史が蓄積された自泉会館が、岸和田の人々にとっての大切な「場」として輝き続けていくことを願う。

岸和田には多くのすばらしい先人たちがおられます。いろいろな分野で活躍された岸和田ゆかりの著名な方々をご紹介します。

## 武士の日記

幕末の岸和田藩士

熊澤 友雄

幕末の岸和田藩士である“熊沢友雄”について紹介させていただきます。嘉永5年（1852）～明治26年（1893）に亘り、熊沢友雄は藩や家庭での出来事を詳細に記述した日記を書き残しました。この日記は泉南市樽井の旧家に保存されていたが、岸和田市教育委員会により活字化され、当時の岸和田についての第一級の史料として公開されました。活字化作業はまだ継続中です。

熊沢友雄は天保2年（1831）2月19日に下塚町・下津忠雄（120石）と母（岸和田藩士・須藤秀綱の妹）の次男として生まれました。10歳で寺子屋へ通い始め、12歳で藩儒・三宅源之允に師事した。学問好きで、友と交わり遊ぶことはあまり好まず、変人扱いされたようです。20歳（嘉永3・1850）で熊沢賢之（100石）の養子となる。利発で品行方正な友雄は、郡代である養父の計らいもあり小姓役助勤にとりたてられた。しかし、下津家の実兄・忠直が安政2年（1855）に江戸で脚気のため病死。忠直には男子なく、三男の小三郎を嗣子とした。この年の11月に養父の養女・挺と結婚し、翌年、養父が隠居し100石を相続し、北大手当番の役につく。安政4年（1857）には大監察と軍使を兼任し、公明正大であることを認められ、この役目に就いたものと推察される。安政6年（1859）には下津家の嗣子・小三郎も江戸で病死、翌年親類の多羅尾氏の次男・万之助を養子に迎え、下津家の相続人とした。

その間、友雄は江戸勤務であったが、万延元年（1860）に無事帰国した。文久2年（1862）、藩要人等の不正を追及したため罷免され、文久3年（1863）には河州四郡土砂留奉行に左遷される。岸和田藩は大和川付替普請以来、河川管理の役目を幕府から命じられていた。その役目での巡回に際し、各村々から饗応されるのを友雄は快く思っていなかった。村々としては扱いにくい役人であったと思われる。しかし、慶応元年（1865）、藩主により町奉行・寺社奉行兼任に抜擢され、明治維新を迎える。その後、農商兼神祇知事・会計判事・公用人・大政官庁大属・監察掛・和泉国第17区区长・堺県会議員・県会副議長・大阪府会議員・南日根郡長・岸和田授産場監督等を歴任し、明治29年7月25日（1896）に入寂。

明治元年（1868）の藩主相続騒動で藩内が分裂したが、それにも冷静に対応し、中立を維持し、不正を弾劾し、職務を遂行する友雄の姿勢がうかがえる。廃藩置県により禄を失った藩士たちのため新政府と交渉したり、芽生えてきた民権活動やキリスト教に興味を持ち、来岸した“新島襄”や“新島八重”の講演に参加し、更に個人的に面談にまで及んでいる。このように新しい時代にも対応しようと、公務やボランティアに取り組み、世に必要とされた最後の岸和田藩士の一人であった。



熊澤友雄 日記の数々

# Cultural Hot Spot In Kishiwada

(取材・文 小島栄子・本郷元子)



岸和田市文化サロンの様子

“岸和田文化連絡協議会”（略称：岸文連）は、今年で設立30周年を迎えます。節目の大きな事業の取り組みも進行中とのことで、設立の経緯から今後について、会長の藤田保平さんにお話をお伺いしました。

## 岸和田文化連絡協議会 岸文連は30歳になりました!

### マドカホールの開館がきっかけで

1984年5月、岸和田市制60周年記念事業としてマドカホールがオープンしました。その前年に建設について、市教育委員会は市民の要望や意見を聞く「公聴会」を2度開きました。その席上で、運営についても市民の声を生かしてほしいという要望が出され、いくつかの団体に呼びかけて「市立文化センターの運営を考える会」を11月に結成しました。市長、教育委員会と懇談を重ね、1985年1月「文化センター（仮称）の運営に関する提言書」を市長と教育委員会へ提出しました。

### 熱い話し合いの結実が

提言には、市の直営館であること、運営・企画には各分野の文化活動家の専門家で構成する運営委員会の設置、閉館時間は22時とすること、車椅子での入場観覧席の設置、託児室の設置など、当時としては大変先進的な内容が盛り込まれていました。

提言書が出来、当初の目的が達成された段階で、折角志を同じくする者が集まった機会を活かそうと開館後の7月末に染色画家の吉田太郎氏を会長として「岸和田文化連絡協議会」を結成しました。参加は個人26人、団体25団体でした。

### 独創的・進歩的な活動を

設立以来、自主・自立の精神で行政からの補助金は受けず、岸和田の文化の様々な面で意見を述べてきました。情報誌「CULTELIER」の発行は80号を数えました。現在、会員は50人と10団体です。

この間、岸和田の文化面では幾多の変遷がありました。

1986年出された文化振興審議会答申を受け、幾度もの討議を重ね、各文化団体間の連携強化として「岸和田文化団体連合会」（略称：岸文団連）が設立され、（仮称）「友の会」の提言は後に「岸和田市市民文化事業協会」に具現化されました。

「岸和田市文化協会」と「岸和田文化連絡協議会」は、独自の活動をしながらも連合体としての活動に取り組み、文化会館5周年記念事業を成功させるべく、「岸文団連」・市との共催で「土と水の伝説」～久米田池物語～を、出演者250名の大舞台として成功させました。1992年にはその第2弾「波と炎の伝説」～蛸地蔵物語～を上演しました。

数々の自主事業や会員の特技を生かした文化サロンも会の内外で好評を博し、また「岸和田風物百選を歩く」シリーズも多くの参加者を得て長く続きました。

今年はマドカホール開館30周年、岸文連設立30周年を記念し、上記2つの岸和田の伝説シリーズに引き続き、うたしばい・神於山物語「風と雲の伝説」を、11月22日(土)・23日(日)に亘りマドカホールにて上演します。是非お楽しみください。



岸和田市立文化会館オープン5周年記念舞台チラシ

歩いて岸和田のよさを知る

# 岸和田慢歩

第14回 「久米田池から楠本神社まで爛漫の花を愛でる」

## ①久米田池

スタートは久米田池。

## ②神坂

第3回「岸和田慢歩」で紹介した岡山御坊跡へ続く急勾配の坂道。

## ③水沼神社

神坂の近くにある社。詳細は不明。

## ④穂棕神社

正式名は菅原神社。三田町の飛び地にある同町の氏神で、祭神は菅原道真とされているが詳細は不明。岡山町ではこの神社を「おかんど」といい三田町では「おくんど」と呼ぶ。

## ⑤岡山町山出地車庫

岡山町に3台あるだんじりのひとつを保管。正式名は「山出小路」ほかの2台は「大西小路」と「東出小路」。

## ⑥念仏橋

牛滝川に架かる橋で、名前の由来は岡山御坊に参詣する人たちのために架けられたことからといわれている。

## ⑦念仏橋碑

念仏橋が架け替えられるとき、この場所に移され保存されている。

## ⑧三田町小倉地車庫

三田町には三田と小倉の2台地車があり、両町とも宮入は穂棕神社。ただし、境内へ続く道は狭くて勾配もきついため、だんじりを留め置き、町民だけが坂を上って参拝する。



## 岸和田 あ・ら・か・る・と

満願寺住職 水尾 保久

### 花まつり

(灌仏会)



4月7日、花まつり(灌仏会)、お釈迦さまのお誕生日を仏教各宗派でお祝いをいたします。昨年4月8日は当満願寺本堂で岸和田市仏教会主催により、岸和田市長、遺族会会長、町内会長を迎えて花まつりが開催されました。明治時代以前は「灌仏会」と言っておりましたが明治以降「花まつり」という呼び方で親しまれています。当日は好天に恵まれ、近年少子化と言われていますが多数のお子さん、大人の人と合わせて約150名の方が来て下さいました。最初におつとめ、仏教会長のわかりやすい「お釈迦さまと花まつりのお話し、次はお楽しみの人形劇、クラルテ人形劇の「ふーふー・パタパタ」という劇で子ども達はもちろん大喜び、又それ以上に大人の方がいつ以来だろうと久しぶりに童心に返って大声で笑いながら一心に見ておられました。最後に花で飾った「花御堂」のお釈迦さまの誕生仏に甘茶をかけて仏さまの子どもとしての御縁を喜ばせて頂きました。お釈迦さまの御誕生の際、甘い雨が降ったと言われ「甘露の法雨」と言い、仏教では甘露は涅槃(さとりのことを表わし、苦悩を癒し、長命を得ると申します。灌仏のあと参加者全員、本堂の回廊で甘茶の御接待。初めて飲む方も多く、顔をしかめる子もいれば、おいしいからもっと頂戴という子、おいしいですぬという大人の人。皆それぞれ共に花まつりを楽しませて頂き、帰りは全員が大きなお菓子の袋を頂いてにっこり。楽しい一日でした。

3月末頃から4月初めは、久米田池周辺の桜が一斉に咲き乱れます。また、包近町内では桃の花が見ごろで、「桃の花まつり」も行われます。今回は、そんな満開の花々に囲まれながらの散策ルートをご紹介します。

理事  
藤田保平・齒黒猛夫

⑨ 桃畑

包近の地名鎌倉時代から室町時代に見られ、「兼親」とも書かれる。包近の桃は元久米田池地から岡山の丘陵ではじまり、その後、包近付近へ移ったといわれている。

⑩ 楠本神社

平安時代中期に編纂された「延喜式神名帳」に記された「式内社」で、和泉国内神名帳には神階が「従五位下」とある。祭神は不詳だが、中世以降の菅原道真を祀る天神信仰にしたがい、明治初めまでは「天神社」と称し、後に今の名に改められた。伝説では道真を併祀したのは織田信長の時代からといわれる。なお、大正4(1915)年に合祀された八幡宮は楠木正成の祈願社で、奉納された武具・菊水旗は兵火にかかることを恐れ、天野山金剛寺に納められたと伝えられている。

⑪ 楠本城址

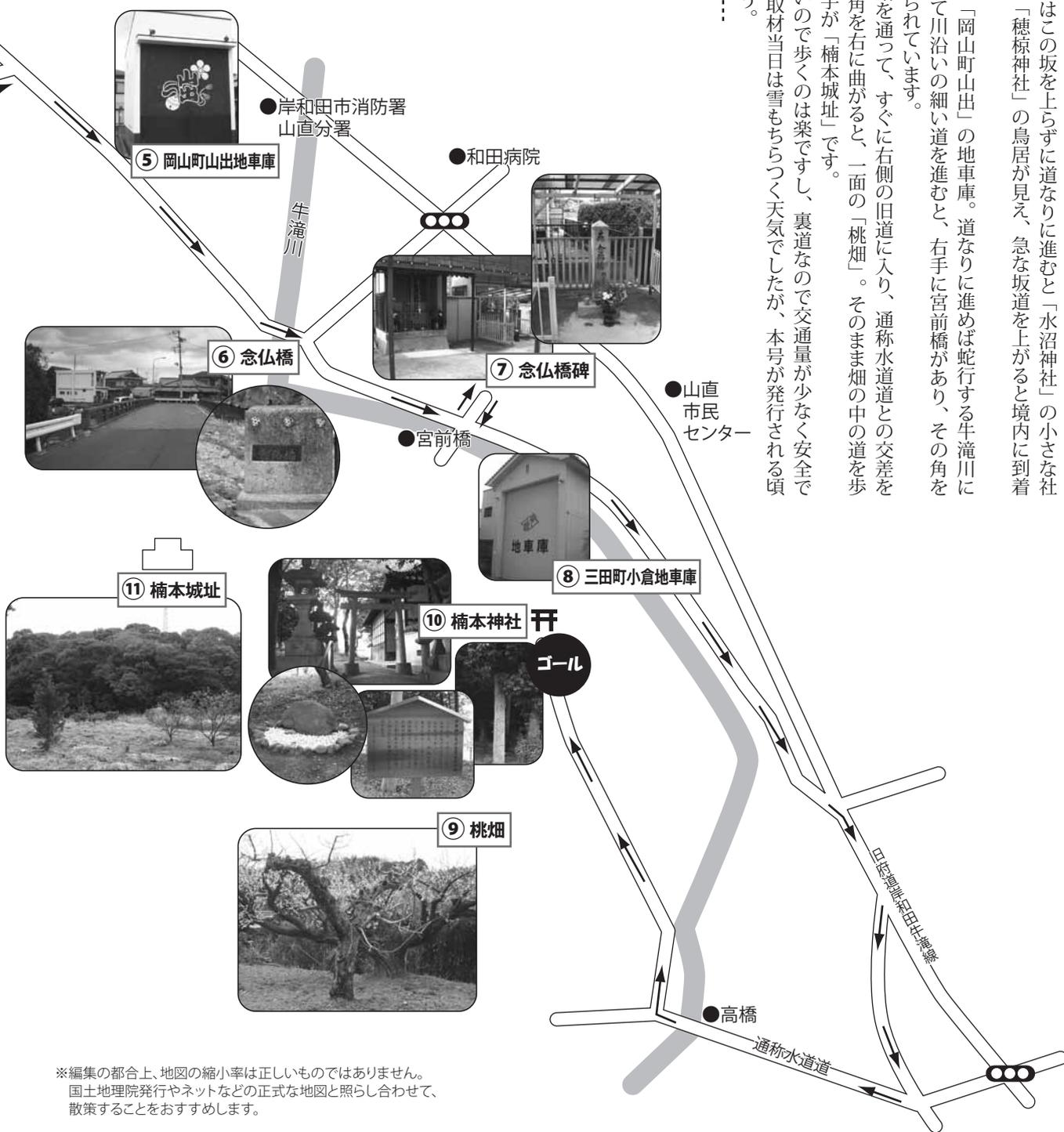
楠本神社の南に位置する台地に、戦国時代ごろ存在したとされるが、城主等に関しては記録がない。

今回のスタートは桜並木も見事な久米田池から。久米田寺から池に沿って山側に進み、久米田池に注ぐ栄川に沿って歩き、ふたつ目の角を右に曲がります。しばらく歩くと第3回の慢歩で紹介した、岡山戎神社や岡山御坊跡に続く「神坂」。今回はこの坂を上らずに道なりに進むと「水沼神社」の小さな社があり、そのまま進むと右手の路地の奥に「穂椋神社」の鳥居が見え、急な坂道を上がると境内に到着します。

もとの道に戻り、しばらく歩くと左側に「岡山町山出」の地車庫。道なりに進めば蛇行する牛滝川に架かる「念仏橋」に到着します。橋を渡って川沿いの細い道を進むと、右手に宮前橋があり、その角を左に曲がると祠の横に「念仏橋碑」が建てられています。

再びもとの道歩き、少しだけ幹線道路を通って、すぐに右側の旧道に入り、通称水道道との交差を右に曲がり、高橋という橋を渡ってすぐの角を右に曲がると、一面の「桃畑」。そのまま畑の中の道を歩いた突き当りが「楠本神社」で、神社の裏手が「楠本城址」です。

ちょっとした距離ですが、勾配が少ないので歩くのは楽です。裏道なので交通量が少なく安全です。そして、何といっても満開の桜と桃。取材当日は雪もちらつく天気でしたが、本号が発行される頃は、春爛漫の陽気になっていることでしょう。



※編集の都合上、地図の縮小率は正しいものではありません。国土地理院発行やネットなどの正式な地図と照らし合わせて、散策することをおすすめします。



Ichigo-Ichen

## 静坐無為國

松端 孝元

みだしの言葉は、静坐の創始者岡田虎二郎先生が好んで揮毫された言葉です。「あえて求むるなかれ。無為の国に静坐せよ。坐するに方三尺のところあれば、天地の春はこの内にみなぎり、人生の力と人生の悦楽とはこの中に生じる。静坐は、真に大安楽の門である。」と教えてくれています。

静坐は、一種の呼吸法です。丹田腹式呼吸です。言葉だけでは説明できませんが、下腹部にある丹田に力を込めてする腹式呼吸です。一息、一息が大切です。腹は、明らかに上の腹と下の腹との二重構造になっています。上の腹は、意識下にありますが、下の腹は、潜在意識の領域で一般的には気がつきません。

人間が物事を考えるとき、普通、意識下の上の腹で考えます。しかしその考えの材料は下腹部に隠されています。下腹部には、意識するしないにかかわらず、今までの通りきた自らの善からぬ経験やら、考え方がヘドロのように溜まっています。ですから自分では「怒るまい」「悲しむまい」「恨むまい」と思いながらもそんな感情が生まれてくるのです。朝晩30分の静坐で、このヘドロを掃除するのです。自然にきれいに澄んだ心根が芽生えてきます。まさに大安楽の門が待っています。

現今の騒動しいこの社会にあって、現代人が最も必要とするものが静坐だと思っているのですが…？

(「静坐無為國」は松端氏の書です。)

## 忘れられない名画

小島 栄子



第九の怒涛

19世紀、ロシアの海洋画家アイヴァソウスキー、32歳の時の大作「第九の怒涛」。

縦2m、横3mを越える巨大なキャンパスに描かれているのは激しい大嵐。そして彼方に光輝く黄金の朝日。初めてこの絵を見た時その存在感の素晴らしさに胸がいっぱいになり、いつしか涙が溢れていました。

「第九の怒涛」とは、大嵐の中一定のリズムで襲いかかってくる大波で、その9番目の波が最も危険であり、その波を乗り越えた時に必ず天の助けがある、と昔から言い伝えられているそうです。まさに人の人生を象徴しているかのような大作に、かの大文豪ドストエフスキーも「この嵐の絵には歓喜がある」と讃嘆したといわれています。

わが家の居間に飾ってあるハガキ大の小さな「第九の怒涛」の絵。それでも見るたびに元気になるのは、10年前初めてこの絵に出会った時の感動を身体が今なお鮮明に覚えているからだと思います。

# 上海に行きました!

岸和田文化事業協会会長 松本 則子

イタリアにレッジョ・エミリアという都市があり、芸術で子どもを育てています。この教育方式はレッジョ・エミリア方式として世界中に広がっていて、日本でも取り組んでいる幼稚園があるかもしれません。

これを中国で実践しようしている「とまとアートスクール」というグループがあり、中国政府も支援していて、その一環としての国際シンポジウムが上海でありました。

そのシンポジウムに発言者として来てくれませんかという依頼がありました。人形劇を上演している事を話せばいいのかと気楽に受けたのですが、行ってびっくり、見てびっくりしました。

発言する人はアメリカコロラド大学や、台湾芸術大学の教授のような人でした。なんで私と首をかしげて、発言者の話を聞いていてわかりました。私が日本のあちこちで子どもたちに人形劇をさせている事

を、報告してほしいのだという事が。

日本にいるときにわかっていたら、資料や写真など持ってきたのと悔やみましたが後の祭りといいたけれど、中国からの連絡はすべて英文のメールで、迎えてくれた通訳の人に「この催しはなに」と問えば「私もわからない」という返事、さすが大陸と感心させられました。

おまけに逐次通訳で、いと頼りない手ごたえの講義となりましたが、それでも終わった後で、多くの人が私と一緒に記念写真を撮ろうとしてくれましたし、あくる日の報告で「日本の松本の話には感動しました」と言っていました。

日本に帰って、飛行機代もホテル代も食事代もみんな出してもらったと言ったら、「それって国賓やんか」と中国を知る人に言われました。「ええ?!」と今頃あわててもねえ。



## Event Report

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。  
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

### アンケートからの抜粋

#### 新春 邦楽の夕べ

平成26年1月17日(金)  
午後7時~

三絃、琴、尺八、唄、舞による邦楽コンサートを自泉会館ホールで実施し、77人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- ◆舞台袖の若松が、正月らしくて良く、その気配りが嬉しいです。
- ◆後ろの方の席のため、踊りや演奏が見えにくかったのが残念です。
- ◆出演者の息使いが感じられるほど間近で鑑賞させて頂き、とても楽しく過ごさせて頂きました。休憩時のお茶のお心遣いも嬉しいです。
- ◆若い世代に日本の伝統芸能を広めていってもらい、多くの方々に日本古来の思いやり、奥ゆかしさを伝えてほしいと思います。
- ◆19年前の1月17日の阪神淡路大震災で失ったものは大きく多かった。その同じ日に、この伝統ある雅な物に触れる事ができて不思議な気持ちになりました。伝えていく事の必要性和難しさをおぼわすにはられません。



#### 第3回自泉ジュニアコンサート 平成26年2月23日(日) 午後2時~

2月1日に実施したオーディション(35組申込)に合格した小学3年生から高校1年生までの16人によるコンサートを自泉会館ホールで実施し、135人の入場者がありました。  
また、出場者の中から、最優秀賞1人、優秀賞2人に対して賞状を授与するとともに、フレッシュプレミアムコンサートに出演していただくことになりました。

〈皆さんの声〉

- ◆子どもたちの一生懸命が伝わってくる良い催しだと思います。普段はクラシックを耳にすることも無いのですが、日曜日のお昼にとても良い音に癒されました。
- ◆ホールはとてもレトロで素敵ですし、曲の数も良く、雰囲気がとても良かったです。演奏は、皆さん素晴らしいです。
- ◆これから芽を出そうとしているジュニアたちに発表の機会を与えてくれて感謝です。一つの刺激になって頑張ってくれればと思います。より向上しますように!
- ◆ジュニアの発表の場が増えたことは良いことだと思います。また、素晴らしい演奏が聴けました。
- ◆入場者の出入りがずつとあって、マナーが?



# 岸和田文化事業協会の事業 Information



## 平成26年度 定時総会開催



平成26年度定時総会を下記の要領で開催します。

日 時：平成26年5月17日(土) 午後2時より

場 所：岸和田市立自泉会館

内容 総 会 第1部 ①平成25年度事業・決算報告 ②平成26年度事業・予算案審議

第2部 「日本の四季、心のふるさと」

第3部 懇親会

### 第39回自泉フレッシュコンサート ～春の風にさそわれて～

音楽を学び、プロフェッショナルとして歩み始めた新人演奏家によるコンサート

日 時：平成26年4月18日(金) 午後6時半開演

会 場：岸和田市立自泉会館ホール

出演者：的場 はるか(ピアノ)

中田 千恵(ソプラノ)

入場料：一般前売1,200円(当日200円増)

会員前売1,000円(当日200円増)

### 第40回自泉フレッシュコンサート ～緑の風にさそわれて～

音楽を学び、プロフェッショナルとして歩み始めた新人演奏家によるコンサート

日 時：平成26年6月13日(金) 午後6時半開演

会 場：岸和田市立自泉会館ホール

出演者：出場者未定

入場料：一般前売1,200円(当日200円増)

会員前売1,000円(当日200円増)

## 文化情報

### 「第65回岸和田市市展」への出品を募集いたします。

自作未発表のものに限りです。

詳しくはマドカホールにて配布中の募集要領をご覧ください。

資 格 平成11年4月1日以前に生まれた人

出 品 料 500円

搬入場所 マドカホール 展示場(荒木町1丁目)

会 期	部 門	体 裁	出品数	搬入日時
第1期	洋画	額装(ガラス不可)	1人1点	5月6日(火)・7日(水) 午後1時～7時 展示期間 5/11日～18日
第2期	染織	額装・屏風・着物・タペストリー・オブジェ	1人2点以内	5月20日(火)・21日(水) 午後1時～7時 展示期間 5/25日～6/1日
	陶芸	皿立て等、装飾の附属品不可	1人1点	
第3期	書	額装・軸装・裱装・衝立・屏風・帖・巻物・刻字	1人1点	6月3日(火)・4日(水) 午後1時～7時 展示期間 6/8日～15日
	日本画	額装(ガラス・アクリル不可)	1人1点	
第4期	写真	パネル張り・額装(ガラス・アクリル不可)	1人1点	6月17日(火)・18日(水) 午後1時～7時 展示期間 6/22日～29日
	俳画	額装・軸装	1人2点以内	

※作品の額縁などにはつり下げ用のひもを必ず付けてください。

問合せ先：マドカホール(担当：中川・川崎) 電話：443-3800 月曜日休館

### タンゴ・ライブ in 自泉

日 時：平成26年7月4日(金) 午後6時半開演

会 場：岸和田市立自泉会館ホール

出演者：タンゴアンサンブル「アストロリコ」

入場料：前売2,000円(当日500円増)

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで

TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

平成26年度(平成26年4月～平成27年3月)

## 会員募集

年会費 個人会員(1口) 2,000円 団体会員(1口) 5,000円  
(入会費不要) 家族会員(1口) 1,000円 法人会員(1口) 10,000円  
(個人会員の同居家族) 特別会員(1口) 50,000円

入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。

郵便振込の場合は  
口座番号 00970—9—28145  
加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

## nouvelle Fontaine vol.43

発行：岸和田文化事業協会

発行日：2014年3月25日

◆事務局

〒596-0073

岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員

小島栄子・歯黒猛夫

藤田保平・本郷元子

### 編集後記...

「理事さん、リレーエッセイ」のコーナーの執筆者が何巡りかして原稿が集り難くなっている。そこでこの際、広く会員さんに参加して頂く会員のページを設け、タイトルも「一語一縁」と改め、巷間好評を博している「絵手紙」の形式でも、短文で絵入りでも、その時々思いを投稿して頂くことにしました。それをひとつの縁(えにし)として、会員の皆様との絆を強めて行けたらと思ひ話題の端に加えて頂けたら幸いです。(藤田保平)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

岸和田文化事業協会

検索